

## スペインにおける「新しい」中国系コミュニティの形成と特徴

### The Formation and Characteristics of a New Chinese Community in Spain

山本 須美子  
Sumiko YAMAMOTO

#### はじめに

現在、ヨーロッパで中国系人口が多いのは、イギリスとフランスで各約60万人といわれ、オランダは約12万5千人である<sup>1</sup>。イギリスやフランス、オランダの中国系コミュニティは、1960年代から1970年代をピークに香港やインドシナから流入した人々が主流であったが、1980年代以降、中国本土出身者が流入し、既存の中国系コミュニティに変化がもたらされた。筆者は、1980年代末からイギリスの中国系移民の調査研究に着手し、2005年からフランス、2009年からはオランダの中国系移民の研究を始め、教育人類学的アプローチから次世代の教育とアイデンティティ形成に関わる3国の比較研究をしてきた [山本 2014a]。

他方で、特に1990年代から、ほとんど中国系移民が存在しなかった南ヨーロッパや東ヨーロッパへも中国本土から新移民の流入が急増し、この約20年間に「新しい」中国系コミュニティが形成されている。筆者は、1990年代以降に新移民の流入が急増し「新しい」中国系コミュニティが顕在化するようになったイタリア、ハンガリーとドイツの場合を取り上げて、ヨーロッパにおける「新しい」中国系コミュニティの特徴を析出した [山本 2014a]。結論として、「新しい」中国系コミュニティに共通する特徴として、中国との経済的結びつきに依存した国際的な経済活動の展開とその変化の速さ、エスニック・ネットワークの活用、そして地理的流動性や女性移民の割合の高さを指摘した [山本 2014b]。

本論では、ヨーロッパにおける「新しい」中国系コミュニティとして前稿 [山本 2014b] では言及しなかったスペインの中国系移民を取り上げる。スペインの中国系移民は2000年代になって急増し、その人口は2016年には16万人を超え、ヨーロッパの「新しい」中国系コミュニティとして注目すべき存在となっている。

しかし、スペインの中国系移民に関する先行研究は多くはない。その歴史的背景や概要についての研究 [Beltrán 1998] や中国系アソシエーションとナショナル・アイデンティティ形成との関係性について論じた研究 [Nieto 2003]、中国人をめぐるメディア表象についての研究 [Nieto 2013]、女性が設立した女性のための活動をする中国系アソシエーションについての研究 [Sáiz 2014]、マドリードの清真禅寺の事例に基づいてトランスナショナルな宗教慣行について論じた研究 [Masdeu 2015]、そして浙江省青田での調査に基づいて文化人類学的アプローチからトランスナショナリズムについて論じた博士論文 [Masdeu 2014] 等がある。

スペインにおける移民の子どもに対する教育について論じた研究 [例えば、有江 2014, Pérez-Mians and Patiño-Santos 2013, Alarcón 2013] はあるが、中国系の子どもの教育に焦点を当てた研究は極めて少ない。マドリードの公立高校と中国語補習校で中国系の子どもの教師との相互作用についての研究 [Pérez-Mians 2006] やマドリードの高校におけるニューカマーの子ども向けのスペイン語教室での中国系の子どもに関するミクロな分析 [Pérez-Mians 2010] がある。また、ユーは、スペインの中国系の子どもにみる低い学業意欲とその要因を論じている [Yiu 2013a, 2013b]。筆者の研究関心に最も近い先行研究はユーの研究 [Yiu 2013a, 2013b] であり、スペインの中国系の子どもの教育やアイデンティティ形成をめぐる問題を検討するには、重要な研究である。

ユーの研究 [Yiu 2013a, 2013b] が依拠しているデータは、マドリードとバルセロナの176校の公立と私立学校における12才から17才の6,884名の移民の子どもを対象とした2008年に実施された継続共同調査 (Longitudinal Study of the Second Generation in Spain: ILSEG) の第一回調査結果である。ユーは、全対象者の内4.2%を占める中国系の子ども266名の内約4割は、中等教育を修了すればよいと考えていて、高等教育を受けようとする意欲が他の移民の二世世代 (モロッコ系、エクアドル系、ドミニカ系、ルーマニア系等) に比べて最も低いことに着目している [Yiu 2013a: 587 Table1]。その要因として、中国系の親は自営業者の割合が高く親の自営業継承への志向が高いこと、そして社会的上昇への障壁を強く認識していることを挙げている [Yiu 2013a]。さらに、ユーは [Yiu 2013b] は、スペインだけではなくイタリアとアメリカを加えて、中国系の子どもの学業意欲を、3国の継続共同研究結果とミラノとマドリードでの29名の中国系の若者へのインタビューに基づいて比較している。結論として、イタリアとスペインでは中国系の子どもの学業意欲が低く、対照的にアメリカでは学業意欲が高いことを示し、その違いを「フレーム」という概念を用いて説明している。イタリアとスペインの中国系移民には、起業によって成功を得ようとする「起業フレーム」を、中国系アメリカ人には、学業によって成功を得ようとする「学業フレーム」を析出している [Yiu 2013b]。つまり、中国系アメリカ人に比べて教育程度の低い未熟練労働者の多いスペインの中国系移民の場合、起業することによる経済的見返りが大きく、起業することは、第一世代だけではなく次世代にとっても経済的上昇の方策として魅力的なものとなっている。家族経営によって、親は子どもに起業への意欲を継承し、子どもはそれを内面化することによって、学業よりも起業への意欲の方が大きくなると述べている [Yiu 2013a]。

筆者はこれまでイギリス、フランスやオランダの中国系移民の教育人類学的研究を行ってきたが、ユーがスペインの中国系にみる低い学業意欲を中国系アメリカ人との比較において論じていることに疑問を抱く。ユー [Yiu 2013a] は、スペインの中国系就業者全体の内40～45%が自営で、他の移民やスペイン人と比べて最も自営業者の割合が高い。中国系アメリカ人の自営業者の割合の10～15%と比較するとかなり高いとして「起業フレーム」の根拠としている。しかしながら、イギリス、フランスやオランダの中国系第一世代も自営業者の割合が高いのに、第二世代は親の職業を継ぐ者はほとんどおらず高等教育を受けてホワイトカラー層に進出している。3国の中国系第二世代は親の職業を継ぎたくないという思いが強く、教育程度の低い親も自分たちのような重労働を子どもにさせたくないと思い、教育を成功の手段としてとらえるユーのいう「学業フレーム」が析出できた [山本 2014a]。つまり、スペインの中国系の子どもの学業意欲の低い原因を、アメリカのそれと比べるのではなく、同じように親に自営業者が多いイギリス、フランスやオランダ、あるいは1990年代以降に新移民の流入が急増しているイタリア、ドイツやハンガリー等と比較する必要があると考える。

そこで、本論の目的は、スペインの中国系移民の歴史的背景とその多様性、そして、ユーが次世代の学業意欲に影響を与えていると指摘している [Yiu 2013a: 584] 経済活動のあり方を検討し、ヨーロッパにおけるスペインの中国系コミュニティの特徴を明らかにすることである。それは、今後、ユーの研究 [Yiu 2013a, 2013b] を検証する必要なステップであり、このような視点の研究は管見の限りない。その際、2017年9月に筆者が実施したマドリードとバルセロナでのフィールドワークも参照する。フィールドワークでは、出身地や年齢を限定せず、多様な背景を持つ10代後半から60代後半の中国系移民19名にライフヒストリーを構築するインタビューを実施した。浙江省青田出身の両親を持つ10代後半の3名と、台湾出身の両親を持つ30代男性1名はスペインで生まれ育った第二世代であるが、それ以外は第一世代である。

分析の手順としては、I章でスペインの中国系移民の歴史的背景を、II章では経済活動のあり方を明らかにする。III章では中国系コミュニティの多様性について、筆者の実施した中国系移民へのインタビュー結果も含めて検討する。最後にIV章では、イギリスとフランス、オランダ、イタリアの中国系コミュニティと比較して、スペインの中国系コミュニティの特徴を析出する。

## I. 歴史的背景—20世紀初めから2000年代以降

### 1. 1980年代以前

スペインに少数の使用人や商人、修道女がいたことを除けば、中国人がスペインに住むようになったのは20世紀始めである。港町バルセロナは、中国人の船員や商人が第一次世界大戦前に初めて住み始めた街で、東洋との取引を専門にする会社もあった。第一次世界大戦中にフランス政府に召集された中国人労働者の一部も、戦後スペインに移動した。1920年代から1930年代には浙江省温州市や青田

出身の行商人がヨーロッパ全土に広がり、スペインに渡った者もいた [Beltrán 1998: 212-214]。特に、青田からの初期の移住者は、その後の青田からヨーロッパへの移住に繋がったといえる [Thunø 1999]。

1949年の中華人民共和国建国に伴って、何人かの中国人キリスト教司祭が香港経由でスペインにやってきた。1953年にはスペインは台湾と外交関係を確立した [Beltrán 1998: 216]。1961年の中国人人口は167人であった [Beltrán 2005: 287]。台湾とスペインの相互交流プログラムによって、台湾人留学生もやってきた。国連総会で中華人民共和国の中国代表権が認められ、1973年の中国とスペインの外交取引関係の確立後には、中国本土からスペインに来た中国人もいた [Nieto 2003: 219]。しかしながら、1970年代までのスペインの中国人人口は多くはなかった。

## 2. 1980年代～1990年代

1980年代初めになると、中国とスペインの両方で社会経済的変革が起こり状況が変化した。スペインでは、1975年のフランコ独裁政権の終結後1986年にECに加盟し経済成長を遂げ、スペイン人が就労を望まない低技能・低賃金の労働市場に、外国人労働者に対する需要が生まれ、1990年代前半は、特にモロッコ人を中心とするアフリカ大陸からの外国人労働者が増加した [有江 2016: 121]。中島 [2007] は、南ヨーロッパ諸国が1980年代から移民受入国に転じているとして、その理由として、移民政策を準備していないゆえの入国の容易性、移民送出国との地理的近接性、旧植民地との文化や言語のつながり、国境管理の困難や密入国を斡旋する「越境産業」が活動しやすいこと、さらに、観光業に依存するため、国境管理を厳しくできないことを挙げている。そして、最も重要な要素として、インフォーマル経済における就労可能性、非合法での滞在可能性を指摘している [中島 2007: 157]。

他方中国では、1978年の改革開放政策以降、人の移動の制限が緩み、都会でも田舎でも経済的社会的期待が高まり中国人の海外移住が容易になったが、1980年代の始めには、まだスペインにおける中国系人口は少なく、1,000人にも達していなかった。スペイン政府が1985年7月に制定された法律に基づいて初めて実施した正規化<sup>4</sup>後の1986年以降から中国系人口は徐々に増加した [Nieto 2003: 219-220]。1986年と1991年の2回の正規化によって、中国系人口は前年の50%増となった。1991年の正規化以前はスペインには約8,000人の中国人不法移民がいたと言われ、ヨーロッパに入国する最後のチャンスを逃すまいと近隣諸国からスペインに入国した。この流入は、特に1989年の天安門事件後の伝統的移民送り出し地域の移民フィーバーとも重なった [Beltrán 1998: 219]。1980年代からの観光業が発展したことも、中華レストランの増加と労働力としての家族呼び寄せを促した。また、浙江省青田や温州市からの以前の移住者によって確立されたネットワークの再活性化によっても移住が促進された [Nieto 2003: 219-220]。中国人がマドリッドとバルセロナの特定な地域に集まり可視化し始めたのは1990年代前半であり、1990年代後半になるとその傾向がより強くなった [Beltrán 2005: 286]。

### 3. 2000年代以降

2000年代になって中国系人口はさらに急増した。1991年の中国系人口は6,500人であったが、2001年には36,000人となり、モロッコ系、エクアドル系とコロンビア系に次いで、中国系はスペインで4番目の非EU系移民集団となった。2002年の中国系人口は42,000人であるが、この数字には帰化した1,800人と不法移民は含まれていない。いくつかの中国系アソシエーションは、不法移民は35,000人以上で、2002年の中国系人口は約8万人と述べている。不法移民の多さは中国系に限られたことではなく、モロッコ系やエクアドル系、コロンビア系等にも当てはまる。スペインに入学するほとんどの不法移民は船で海から入国しているが、中国人の場合は、留学や観光ビザで空路で入国し、不法に滞在を延期している [Nieto 2003: 221-222]。

2000年代の中国系人口の増加には、1990年代の中国東北部での国営企業の再編による失業者の増加や、中国が外国資本の重要な投資先となり世界で最も大きな製造元となったという中国の構造改革も関連している。2001年12月に中国が世界貿易機関に加入した後は、1990年代から始まっていたヨーロッパと中国間の輸出入業はさらに盛んになった。最新の統計によれば、2016年のスペインの中国系人口は163,727人で [INE]、マドリードの中国系人口は58,212人 [INE, Comunidad de Madrid]、バルセロナは47,764人、カタルーニャ州は58,036人である [Idescat]。

## II. 経済活動の展開

### 1. 飲食業から新しいニッチへ

スペインの中国系移民は、1980年代までは飲食業に集中していた [Yiu 2013a: 579]。最初の中華レストランが開店したのは1950年代であり、スペインの地中海沿岸地域で観光業が盛んになった1970年代から1990年代初めまでに中華レストランは全土に広がった。2000年代初めまでの中国人の最も重要な経済活動は飲食業であったが、1990年代後半には飽和状態になり、縫製業、卸売業、小売業、露天花商や中国人向けの様々なサービス業という新たなニッチが開拓された。Todo a cien<sup>iii</sup>と呼ばれるお土産や安い生活雑貨を売る商店は、ほとんどが中国人経営となった。初期投資も少なくすむので、短期間で閉店する場合も多かった [Beltrán 2005]。

こうした新たなビジネスの展開に伴って、特にマドリードとバルセロナやその郊外の一本や数本の通りの狭い限られた地区への中国人の集住がみられるようになった [Beltrán 2005: 290]。集住は2つの新たな経済活動に伴うものであり、第一はフランスやイタリアで生産された皮革製品や鞆を扱う卸売業、第二は15年以上前からイタリアとフランスで展開していた縫製業であった。衣類や鞆の卸売業者はマドリードのラバピエス地区<sup>iv</sup> (Lavapiés) に150件、バルセロナのエイザンプル地区 (Eixample) に60件が集まった [Beltrán 2005: 299]。比較的短期間に中国人が存在しなかった地区に中国人卸売店が集積したので、中国人の存在が可視化された。

他方で、経済資本の少ない新しく流入した中国人は不動産の安い地区に住んだので、郊外にも居住地区が広がった [Beltrán 2005]。マドリード南部のウゼラ地区 (Usera) は、低所得者が多い地区であるが、マドリード市では中国人の最大の居住地となった。ウゼラ地区は他の地区に比べて外国人人口が多く5分の1を占め、そのうち中国人が最も多く外国人人口の20.7%を占めている [Nieto 2013: 74]。

バルセロナ郊外のサンタコロマ地区 (Santa Koloma) のフォンド (Fondo) は、伝統的な繊維産業が盛んな街であったが、繊維産業が廃れた1990年代に中国人が流入し約300件の家族経営の初期投資が少なくすむ縫製所が設立された。スペイン人やモロッコ人が設立した縫製所と競合したので、モロッコ人ギャングと中国人との諍いが通りで生じることもあった。この地区には中国人向けの中国人経営の様々なビジネスも増加し、2002年にはスペインで最大の中国人集住地区となり、いくつかの中国系アソシエーションや中国系教会、中国語補習校が設立された。サンタコロマ地区の中国人経営者の多くは以前オランダやポルトガル、フランス、イタリアに住んでいたことがあり、この地区に来るまでに、スペインの他の地域にも住んでいた [Beltrán 2005]。ニエトはマドリードやバルセロナ郊外の中国人集住地区を、様々な国籍や民族的背景の人々が集まり、その中で中国系移民が経済活性化に大きな役割を果たしている、中国人の居住と経済活動が集積する「チャイニーズ・エスノバーブ」と呼びうる新たなチャイナタウンであるとしている [Nieto 2013: 76]。

さらに、中国人をめぐるメディアでの言説を分析したニエトは、中国人の存在を職業機会や資源獲得における脅威とする否定的な言説と、エキゾティズムを称える肯定的な言説を析出し、両者とも中国人を他者として排除することによって、外国人嫌いの感情とオリエンタリストの視点を広めていると指摘している [Nieto 2013: 75]。

## 2. 経済活動の特徴

中国人によるビジネスは、ほとんどが家族経営であるのが特徴である。ほとんどの経営者は、たとえ知り合いの中国人を雇っていても、家族や親族を雇用し、雇用形態はかなりインフォーマルで融通性が効く。小さなビジネスを立ち上げるのに、同郷の親族や知人が資本を出し合うのが典型的である。もしビジネスが成功したら、その利益は、親族や元のビジネスの共同経営者、家族によって営まれている他のビジネスに投資される。新たなビジネスの経営者は、親族が家族経営のビジネスで働くために中国から移住する資金を援助をする。こうしたサイクルが繰り返されることによって、中国からスペインへの移民の流入が継続した [Nieto 2003]。

筆者のインタビューをした温州出身の40代男性の場合は、同郷の友人を頼って単身でローマに移住し、中国の工場で製造した下着の卸売業を営んでいるが、家族や親族は皆中国にいる。ビジネスは同郷の友人とのネットワークに依存しているが、家族経営ではない。中国の下着製造工場では300人から400人の中国人従業員を雇っている。中国で製造した下着を輸入して卸売をする、彼が起業したスペインの卸売店では3人の中国人従業員を雇っているが、ネットで公募したので同郷人ではない。マ

ドリードの中国人の卸売業者の密集地区で店を構えているので、中国人卸売業者同士の交流はある。顧客は6割がモロッコ人、2、3割が中国人、残りの1、2割がスペイン人である。

また青田生まれの30歳女性の場合、1991年彼女が4歳の時に両親がバルセロナに移住した。6歳までは青田の父方祖母が、妹が生まれた後は、その祖母が妹を面倒見ることになり、7歳からバルセロナの両親の元に来る16歳まで、母方祖母の住む杭州で生活した。バルセロナに移住後の両親は、青田出身者経営の中華レストランで給仕として働き、その後、縫製所で働いた後で縫製所を起業した。数年後には、当時中国人の間で流行っていた中国輸入品雑貨店を開店した。縫製所よりは儲けがあった。10数年後には中国から輸入した造花の卸売店を開業し現在に至っている。スペインに移住した親族は他にはおらず、皆中国にいる。この事例にみられるような中華レストランから縫製所、中国からの輸入雑貨店や卸売店経営への移行が短期間にみられるのも経済活動の特徴といえる。また、輸入雑貨店や卸売店は、商品を中国で製造したり中国から輸入したりして、中国と結びついた経済活動を展開していること、最初に仕事を見つけるのは同郷のネットワークに頼っていることも指摘できる。

また近年急増している修業後もスペインで就業している留学生の場合、中国人経営の会社で働く者が多く、中国とスペイン間の貿易が盛んなので就職先が多い。スペイン人経営の会社よりも中国人経営の会社は給料は高いが、仕事はハードであるとのことであった。

### III 中国系コミュニティの多様性

#### 1. 浙江省出身者

スペインの中国系移民の中で最大の集団は青田出身者であり [Nieto 2003: 219]、温州市も含めた浙江省出身者が約7割を占め、教育程度は低い者がほとんどである [Masdeu 2014: 6]。リーは1994年温州市での調査に基づいて、ヨーロッパに移民すれば裕福になれるという共通認識を生み出すような「移民文化」が温州にはあり、ヨーロッパへの連鎖移民が続く要因であると指摘している [Li 1999]。

筆者は2名の温州出身者にインタビューをした。一人は前章で取り上げた40代男性で、温州で高校卒業後家業の家具店を手伝っていたが、当時経済状況が良くなかったので1999年23歳で単身で同郷の友人がいたローマに移住した。彼は次男であるが、次男が海外移住するのは珍しいことではなかった。最初は中国人経営の縫製所で働いたが数か月でやめ、高校を中退して下着の卸売業を起業した同郷の友人の元で9年間働いた。その後、現在の妻である日本人女性の中国留学期間は一時期中国に帰国していたが、2013年にローマでの下着の卸売業をスペインでも展開するためにスペインに移住した。

マドリードにある中国語補習校校長である60代女性は、大学を卒業後、温州で安定した教職に就いていたが、故郷に帰還した海外移民から海外生活の良さばかりを聞き、海外での生活に憧れ、1993年

末に温州出身の友人のいたスペインに移住した。しかし、現実には聞いていた話とは異なり、スペインではゼロからの出発で、ウェイトレス等どんな仕事もした。1997年にマドリードで初めての中国語補習校設立に携わり、運営もしながら教師を務めた。2002年にマドリードの中国人集住地区であるウゼラ地区にキリスト教会が設立されたが、教会責任者に教会で中国語補習校を開校してほしいと頼まれ、2005年に教会で中国語補習校を設立した。現在では校舎も購入し生徒数600人の補習校に発展した。この女性のように、浙江省から移住した高学歴者が中国系コミュニティのリーダーとなっている例は、バルセロナにもみられる。1980年代にスペインに移住した青田出身の70代男性は、中国で大学卒業後中国政府の役人として働いていたが、現在は生徒2,500人、教師100人のヨーロッパ最大の中国語補習校の校長となっている。

また、最大の集団である青田出身の親をもつスペインで生まれ育った10代後半の大学生3名にインタビューをした。2名は姉妹で、彼女たちの祖父母は戦後ロッテルダムで中華レストランを開店し、父親はスペインのマラガで中華レストランを開業した兄の元で働くために、中学を中退して1980年代初めに13才で移住した。母親は温州出身である。父親は2007年に兄と共にバルセロナに移り兄弟でレストランを経営している。姉妹は4才と6才の時にバルセロナに移住したので、毎日放課後2時間カタルーニャ語の補習授業を受けた。インタビューをしたもう一人大学生の両親は青田出身で、父親が1992年20才でバルセロナに移住し、中華レストランを経営している。

## 2. 他の地域出身者

少数派としては、上海や広東省、天津、山東省、厦門、広西、雲南省出身者も流入した。1980年代は上海からの流入が最も多かった [Beltrán 1998: 222]。筆者がインタビューをした上海出身の現在マドリードの中国語補習校の校長である60代女性は、知識階級出身であるゆえ文革で農村で働かされた経験から中国が嫌になり、1991年に当時移民管理が緩やかだったスペインに、夫を中国に残して当時13歳の息子と2人で移住した。最初は商店で働き苦労したが、経済的に余裕のできた卸売業者に請われて2000年に中国語補習校を設立し、現在に至っている。

1990年代後半には黒竜江省、吉林省、中国東北部や山東省からヨーロッパへ移住した者もいる。1980年代以降の中国政府の経済改革は、国営企業の再編をもたらし、多くが民営化や半民営化されたり閉鎖されたため、特に1997年から1998年に都会で2千万人の失業者を出す結果となった。失業者はヨーロッパへ移住し、既に移住していた浙江省出身者やヨーロッパ人に雇われた。都会出身が多い中国東北部出身者は、エスニック・ニッチを欠いていたので、個人か子ども一人の核家族で移住した [Sáiz 2013: 167]。

筆者がインタビューをした西安出身の50代女性は、離婚を機に新しい生活を求めて子どもを中国の夫の元に残して、2003年にスペインに単身で移住し、鍼灸院の助手として働いている。2000年に吉林省長春から17才で両親と兄と共にカナリア諸島に移住した30代朝鮮族男性は、イギリスの大学卒業後、バルセロナで2017年にローカルバーを開店している。2010年に蘇州から13才でバルセロナに両親

と移住した19才の専門学校生の場合、父親はシェフとして働いていた国营レストランの民営化で失業してスペインに移住し、現在はスペイン人経営のレストランでコックとして働いている。近年10年間では福建省や中国東北部からの移住者も増えている [Masdeu 2014: 6]。

### 3. 新たな流入

近年、大学や大学院における中国人留学生の増加が指摘できる。スペインの大学で博士号を取得後、中国の大学に就職しようと考えている者もいれば、修士課程修了後もスペインで中国系会社に就職している者もいた。11年前に大学卒業後長春から学生ビザで入国し修士課程を卒業し就労ビザを取得し、先に留学していた夫との間に3才の娘がいる30代後半の女性によれば、英語圏への留学ができなかったためスペインを留学先に選んだ。現在中国の都会は不動産が高すぎて帰国できず、2000年代初め留学する前の不動産価格の10倍以上となっているとのことであった。

さらに50万ユーロ以上を不動産に投資すると永住権が取得できるという政策によって、近年約1,000人の中国人が流入している。その内の一人である筆者がインタビューをした、2007年2月に妻と7才の息子と共に移住した30代男性は、最終移住先はアメリカを考えている。アメリカへの移住手続きを待つ間にスペインでとりあえず永住権を取得しようと蘇州からマドリードに移住した。2000年代初めに蘇州でマンションを購入したが、現在では価格が10倍以上になり、それを売却してスペインで不動産を購入することは容易であったと述べた。

## IV 考察

### 1. イギリス、フランスやオランダとの比較

スペインの中国系人口は、1991年の中国系人口は6,500人であったが、2001年には36,000人、そして2016年現在の最新の統計では16万人を超えている。2000年代になって人口が急増したコミュニティであり、中国系人口の4分の1は15才以下である。イギリスやフランス、オランダのように、1960年代から1970年代をピークに香港やインドシナから流入した人々が主流で、1980年代以降、中国本土出身者が流入したコミュニティとは、中国系人口や人口増加の時期、出身地、人口構成等の点で大きな違いがある。イギリス、フランスやオランダの第一世代は、現在引退の時期を迎え、イギリスやオランダで長年飲食業に携わってきた者は、レストランを売却し、香港の故郷の村に帰還する者も珍しくない。学齢期の子どもが第3世代となっている3国の場合とは違い、スペインの場合、スペイン生まれの第二世代に成人した者が現れている段階である。

イギリスやオランダに1960年代をピークに流入した第一世代は、半数以上が中国料理に関わる飲食業に集中し家族経営の自営業者が多く、全国に散住した。フランスの第一世代は、飲食業に集中せず工場労働や縫製業など多様であるが、家族経営の自営業者が多いことは共通し、パリやパリ郊外に集

住地区を形成した。1980年代以降にイギリス、フランスやオランダに中国本土から新移民が流入し、既存の中国系コミュニティは変化した。中国東北部出身者は3国に流入し、それに加えてイギリスには主に福建省出身者が流入し、飲食業の底辺に吸収されたり、これまで中国系移民が携わらなかった建設業や農業等にも進出した。フランスには1990年代から2000年代に流入した主に温州出身者が縫製業や革製品小売業に、オランダでは1980年代から流入した温州出身者が主に飲食業に携わった。しかし、中国本土からの新移民流入後も、イギリスとオランダでは飲食業が多く散住し、フランスでは職業は多様でパリやパリ郊外に集住地区を形成しているというコミュニティの特徴は変化しなかった〔山本 2014a〕。

スペインの場合、最大の集団は浙江省青田出身者であり〔Nieto 2003: 219〕、浙江省出身者が約7割を占め、教育程度は低い者がほとんどである〔Masdeu 2014: 6〕。前章で検討したような多様性はあるものの、1960年代から1970年代をピークに香港やインドシナから流入した人びとが主流のコミュニティに、中国本土からの移民が流入したイギリス、フランスやオランダの中国系移民の出身地や教育程度、母語の多様性と比べると、2000年代になって急速に主に浙江省出身者が流入したスペインの中国系コミュニティは同質であるといえる。

居住形態としては、スペインの場合、1980年代までは飲食業が主流で全国に散住していた点では、イギリスやオランダと似ている。しかし、イギリスのロンドンやマンチェスター、オランダのアムステルダムやロッテルダムには商業地区として中華レストランが集まるチャイナタウンが形成されたが、スペインにはチャイナタウンと呼べるものはなかった。フランスはパリ13区や3区、近年ではベルビル地区に集住しチャイナタウンが形成されている。

スペインでは1990年代後半になって、飲食業から縫製業や卸売業という新たなニッチに中国人が進出し、マドリードやバルセロナの縫製所や卸売店が集積する地区が出現し、急増したニューカマーが家賃の安い郊外に居住地を求めたことが重なり、2000年代になって「新たなチャイナタウン」が形成されている。これは、1990年代から2000年代にかけてパリのベルビル地区に温州出身者が流入し縫製所を設立し集住したのと似ている。実際にフランスの縫製所からスペインの縫製所への温州出身者のトランスナショナルな移動があり、3国の中で、スペインの中国系移民と最も繋がりがあるのは、フランスに1990年代後半から2000年代に流入した温州出身者である。オランダにも1980年代から温州出身者が流入し飲食業に携わり、スペインの温州出身者と親族関係がある者もいた。また、2000年代以降の留学生の増加は3国とスペインで共通していて、留学後は中国に帰って就職する者もいればヨーロッパで就職する者もいる。

さらに、3国の中国系移民の場合、歴史的にみても主流社会との軋轢はなく受け入れられていたが、スペインの中国系移民は2000年代以降に短期間に可視化したことによって、スペインのメディアでは脅威と捉えられていたことが大きな違いとして指摘できる。

## 2. イタリアとの比較

1990年代以降に新移民の流入が急増し「新しい」中国系コミュニティが顕在化するようになったイタリア、ドイツやハンガリー等の中国系コミュニティの中で、スペインの中国系コミュニティと最も共通点が多いのはイタリアである。イタリアでは、1980年代半ばには約1,500人の中国人が登録されていたが、1996年までに滞在許可証を保持している中国人は約29,000人に、2003年には100,109人に、2006年には186,522人に [Ceccagno, Rastrelli and Salvati 2010: 108]、2017年現在では30万人以上となったといわれている。特に2000年代の短期間に中国系人口が急増したことは、スペインとイタリアでは共通している。

イタリアの外国人労働者に対する最初の法律である1986年移民法では、不法滞在者や不法就労者を正規化し、合法的滞在の外国人には、イタリア人労働者と同等の権利を保障したが、その後続く寛容な移民政策が中国系人口の増加の要因となった [Ceccagno, Rastrelli and Salvati 2010: 93]。これもスペインと共通している。また、不法で移民斡旋業者を介して入国した教育程度の低い未熟練労働者が大半を占めていること、浙江省出身者が主流であることもスペインと同じである。イタリアでは浙江省温州市の出身者が、スペインでは浙江省青田の出身者が多い。

経済活動においては、1980年代から1990年代初めの新移民第一陣が移住した時期には、イタリアに来た中国人は、ほとんど全員が衣服や皮革製品の縫製所で働いた。そして、短期間雇われた後で縫製所やレストランを自営することを目指した。中国人向けにサービスを提供する分野も新しく急成長した。1990年代後半には新移民数が増加したが、1990年代末からイタリア経済の中心であるアパレル業界は経済不況に陥り、中国人経営の縫製所は閉鎖に追い込まれ、ヨーロッパの他国への移住を考える者も増えた [Ceccagno, Rastrelli and Salvati 2010: 120-123]。イタリアからスペインの縫製所へ来た人も多い。1990年代末からは、中国から輸入した既製服の卸売業や小売業が増加した。イタリアで縫製のノウハウとアパレル業界での経験を積んだ中国人は、中国から既製服を輸入しイタリアや中国、それ以外の国の市場にも供給した。中国人輸入業者が集中するローマでは、2003年には中国人経営の卸売店や小売店が400件に上った。生産コストの安い中国でも既製服を製造しイタリアや他のヨーロッパ諸国に輸出する者もいた。この時期には、イタリア人の下請け縫製よりも既製服輸入業や流通の方が魅力ある分野になり、経済活動の中心は生産活動から商業活動に移行した [Ceccagno, Rastrelli and Salvati 2010]。

居住形態としては、中国人経営者はプラートのあるトスカーナ州、ミラノのあるロンバルディア州、エミリアロマーニャ州やヴェント州という特定の地域に集まっている [Ceccagno 2009: 48-49]。スペインではマドリードとバルセロナに集まっているので、特定の地域に集まっているのは同じであるが、スペインではマドリードとバルセロナの中国系人口や経済活動にそれ程違いがないのに対して、イタリアでは都市によって特に経済活動に違いがみられる。

トスカーナ州のプラートは、中国人経営の縫製所が集中し、伝統的な繊維業の街として、輸出向け高級服地の生産地であったが、1990年代から多くの中国人が流入することによって地元経済に影響を

与え、短期間でヨーロッパ中から既製服を買い求める客が集まるファッションの街へと転換した [Denison, Arunachalam, Johanson and Smyth 2007: 4-7]。ミラノの中国人は、縫製業から中国料理のテークアウェイや小さなレストラン、そして小規模な輸出入会社を立ち上げるのが一般的である。レストラン経営が、最も面子を保つことのできる起業であると捉えられていて、その次が大規模な輸出入会社やスーパーマーケットのチェーンを立ち上げることである。現在ほとんどの中国人は中国人経営のレストランか縫製所に雇われるか、小規模ビジネスを営んでいるかである [Cologna 2005]。

ミラノやプラートでは2007年に中国人と地元イタリア人の間の軋轢が表面化した。スペインではミラノでの暴動に匹敵するものは起きていないが、スペイン社会に肯定的に受け入れられていないのは共通している。

以上から、スペインとイタリアの中国系コミュニティには共通点が多いが、イタリアではスペインより10年くらい前から人口が増加し、全中国系人口も多く、集住する都市によって経済活動に違いがみられることが異なっていた。また、スペインでは1980年代までの飲食業から縫製業や卸売業、小売業等に移行したが、イタリアでは現在でも初期投資がかかるレストラン経営への憧れが強くそれが求められていた。さらに、プラートのように中国人の流入が地元経済に影響を与えたり、主流社会との軋轢の表面化はスペインにはみられない。

## おわりに

本論ではスペインの中国系移民にみられる経済活動の特徴として、飲食業から縫製業や卸売業、小売業への移行が短期間で起こることや、中国や他のヨーロッパ諸国で製造した製品の卸売店や中国からの輸入雑貨店の経営であることを析出した。これらが、スペインにおける次世代の起業意欲や学業意欲とどのように関わっているか、本論で明らかにしたスペインの中国系コミュニティの特徴や各国の移民教育政策の違いも踏まえ、イギリスやフランス、オランダ、さらには最も共通点の多いイタリアとの比較の視点から検討したい。

附記：本論は科研費基盤研究 (B) (海外学術調査)「EUにおける中国系新移民の子どもにみるトランスナショナリズムに関する教育人類学的研究」(研究代表者：山本須美子、平成29～32年度)の研究成果である。

### 注

- i イギリスの中国系人口は、2011年国勢調査では約43万人である [Office for National Statistics 2011]。フランスの中国系人口は、約60万人に達している [Beraha 2012: 11]。オランダの中国系人口は、約12万5千人である [Luk 2008: 43]。
- ii 正規化とは、スペイン国内に居住または居住労働許可書を持たずに不法滞在している移民に対して、一定の

- 条件を満たしていれば、居住または居住労働許可書を与えるという制度である [森田 2006: 115]。
- iii 全てが100ペスタ (約60円) で買えるという意味である。現在このような安い雑貨店のほとんどは中国人経営である [Yiu 2013a: 580]。中国からの輸入品を売っている。
- iv ラバピエス地区には2006年に中国人アソシエーションによって大きな中国系ショッピングモールがオープンした [Nieto 2013]。

#### 【参考文献】

- 有江ディエナ  
2014 「スペインにおける移民の子どもに対する教育施策の現状と課題——Castilla y León 自治州を事例に」『未来共生学』 1: 211-245。
- 中島晶子  
2007 「スペイン福祉国家と移民政策」『ソシオサイエンス』 13: 157-171。
- 森田有貴  
2006 「スペインにおける移民政策——ヨーロッパ諸国との比較において」『法学研究』 8: 107-128。
- 山本須美子  
2014a 『EUにおける中国系移民の教育エスノグラフィ』 東信堂。  
2014b 「ヨーロッパにおける「新しい」中国系コミュニティの特徴——イタリア・ハンガリー・ドイツの場合」『東洋大学社会学部紀要』 52 (2): 87-101。
- Alarcón, Amendo Alarcón  
2013 'Linguistic Integration of the Descendants of Foreign Immigrants in Catalonia', *Migrations Internationales* 7-1: 101-130.
- Belrán Antolín, Joaquín  
1998 'The Chinese in Spain', in Benon, Gregor and Frank N. Pieke (eds.), *The Chinese in Europe*, London: Macmillan Press, pp.211-237.  
2005 'Chinese Entrepreneurship in Spain: The Seeds of Chinatown', in Spaan, Ernst, Felisitas Hillman, and Ton van Naerssen T. (eds.), *Asian Migrants and European Labour Markets*, London: Routledge, pp.285-308.
- Beraha, Richard  
2012 *La Chine à Paris: Enquête au Cœur d'un Monde Méconnu*, Paris: Robert Laffont.
- Ceccagno, Antonella  
2009 'Chinese Migrants as Apparel Manufacturers in an Era of Perishable Global Fashion: New Fashion Scenarios in Prato', in Johanson, Graeme, Russell Smyth and Rebecca French (eds.), *Living Outside the Walls: The Chinese in Prato*, Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing, pp.42-74.
- Ceccagno, Antonella, Renzo Rastrelli and Alessandra Salvati  
2010 'Exploitation of Chinese Immigrants in Italy', in Yun, Gao (ed.), *Concealed Chains: Labour Exploitation and Chinese Migrants in Europe*, Geneva: International Labour Organization, pp.89-138.
- Cologna, Daniel  
2005 'Chinese Immigrant Entrepreneurs in Italy: Strengths and Weakness of an Ethnic Enclave Economy', in Spaan, Ernst, Felicitas Hillmann and Ton Van Naerssen, *Asian Migrants and European Labour Markets*, London: Routledge, pp.262-284.
- Denison, Tom, Dharmalingam Arunachalam, Graeme Johanson and Russell Smyth  
2007 'The Chinese Community in Prato', *Asian Business and Economics Research Unit Discussion Paper* 45.
- Luk, Wai-ki E.  
2008 *Chinatown in Britain: Diffusions and Concentrations of the British New Wave Chinese Immigration*, New York: Cambria Press.
- Li, Minghuan  
1999 'To Get Rich Quickly in Europe: Reflections on Migration Motivation in Europe', Peike, Frank N. and Hein Malle (eds), *Internal and International Migration: Chinese Perspectives*, Richmond, UK: Curzon, pp.181-198.
- Masdeu Torruella, Irene  
2014 *Mobilities and Embodied Transnational Practices: An Ethnography of Return(s) and Other Intersections be-*

- tween China and Spain*. Phd Thesis submitted to Autonomous University of Barcelona, Faculty of Translation and Interpretation.
- 2015 'Transnational Ritual Practices among the Chinese Migrants in Spain', In Tang, Chee-Beng (ed), *After Migration Religious Affiliation: Religions, Chinese Identities and Transnational Networks*, World Scientific Publishing Company, pp.329-349.
- Nieto, Gladys  
2003 'The Chinese in Spain', *International Migration* 41-3: 215-237.  
2013 'The Nearby Travel: Discourses on Exoticism and Competition in the Chinatown of Madrid', *Zhongguo Yanyiu* 9: 69-88.
- Office for National Statistics  
2011 March, *Census 2011, Ethnic Group, Local Authorities in the United Kingdom* (Table KS201UK).
- Official Statistics Website of Catalonia (Idescat)  
2016 Foreigners with Residence Permit, by Country of Nationality.
- Pérez-Mians, Miguel  
2006 'Spanish Education and Chinese Immigrants in a New Multicultural Context: Cross-Cultural and Interactive Perspectives in the Study of Language Teaching Methods', *Journal of Multicultural Discourses* 1-1: 60-85.  
2010 'Being a Chinese Newcomer in Madrid Compulsory Education: Ideological Constructions in Language Education Practice', *Journal of Pragmatics*, doi: 10.1016/j.pragma.
- Pérez-Mians, Miguel and Adriana Patiño-Santos  
2013 'Language Education and Institutional Change in a Madrid Multilingual School', *Tilburg Papers in Culture Studies Paper* 85: 1-27.
- Sáiz López, Ameliá  
2013 'Gender, Development and Asian Migration in Spain: the Chinese Case', Oso, Laura and Natalia Ribas-Mateos (eds.), *The International Handbook on Gender, Migration and Transnationalism*, Cheltenham: Edward Elgar, pp.165-184.  
2014 'Women and Civil Society in the Chinese Diaspora: The Spanish Case', *Inter Asia Papers* 38: 1-31.
- Thunø, Mette  
1999 'Moving Stones from China to Europe: The Dynamics of Emigration from Zhejiang to Europe', Pieke, Frank N. and Hein Mallee (eds.), *Internal and International Migration: Chinese Perspectives*, Richmond: Curzon Press, pp.159-180.
- Yiu, Jessica  
2013a 'Calibrated Ambitions: Low Education Ambition as a Form of Strategic Adaptation among Chinese Youth in Spain', *International Migration Review* 47-3: 573-611.  
2013b 'Tiger Children in 'Old' versus 'New' Destination Countries: Higher Versus Low Educational Expectations among Chinese Youth in Spain, Italy, and the United States,' presented in Session 182: *Immigrant Assimilation in the US and Europe* at the 2013 Annual Meeting of the Population Association of America in New Orleans, Louisiana on 13 April 2013.
- (ウェブサイト)
- Instituto Nacional de Estadística (INE)  
2016 Demography and Population figures and Demographic Censuses/ Population figures at/ Series detailed from 2002 (<http://www.ine.es/jaxiT3/Tabla.htm?t=9674&L=1>, 2019年11月24日閲覧)
- Instituto Nacional de Estadística de Catalunya (Idescat)  
2016 Foreigners with residence permit. By country of nationality. Provinces. (<https://www.idescat.cat/pub/?id=aec&n=272&lang=en>, 2019年11月23日閲覧)
- Instituto Nacional de Estadística (INE), Comunidad de Madrid  
2017 Observatorio de Inmigración - Centro de Estudios y Datos ([http://www.madrid.org/cs/Satellite?c=CM\\_InfPractica\\_FA&cid=1354273641612&language=es&pagename=ComunidadMadrid%2FEstructura&pv=1354273649335](http://www.madrid.org/cs/Satellite?c=CM_InfPractica_FA&cid=1354273641612&language=es&pagename=ComunidadMadrid%2FEstructura&pv=1354273649335), 2019年11月24日閲覧)

【Abstract】

## The Formation and Characteristics of a New Chinese Community in Spain

Sumiko YAMAMOTO

The purpose of this paper is to reveal the historical development, diversity, and economic activities of the Chinese community in Spain. It also clarifies the characteristics of the Chinese community in Spain, comparing it to those in other European countries.

In conclusion, compared with the diversity of Chinese people in the U.K., France, and the Netherlands--where since the 1980s people from mainland China have joined people from Hong Kong or Indochina (from where immigration peaked in the 1960s and 1970s), the Chinese community in Spain--where less educated people (mainly from Zhejiang) immigrated since the 2000s--is homogeneous. It has been found that the characteristics of the economic activities of the Chinese community in Spain include the rapid transition of small businesses from catering to sewing, resale and wholesale, and running wholesales or import-export goods shops produced in China or other European countries. It should also be noted that there is great similarity between the Chinese community in Spain and that in Italy. The Chinese population in Italy is larger than that in Spain, and there is a span of economic activities in the cities due to this larger population that is not seen in Spain.